

第5回 (仮称)岩槻人形会館開設準備委員会 議事録概要

- 1 日 時 平成23年1月19日(水) 10:00～11:45
- 2 会 場 大宮区役所南館3階 301会議室
- 3 出席者 【委員】林委員長、是澤副委員長、大越委員、村上委員
田島委員、戸塚委員、井藤委員、菊地委員
【事務局】市民・スポーツ文化局 小山局長
スポーツ文化部 野間部長、五月女次長、桑原参与
文化施設建設準備室 伊藤室長、川田主査、内田主事
株式会社丹青社(橋本、森川)(アドバイザー)

4 次 第

- (1)開 会
- (2)委嘱状の交付
- (3)局長あいさつ
- (4)新委員紹介
- (5)議事
報告
(仮称)岩槻人形会館の進捗状況について
議題
ア 資料等選考評価委員会について
イ 展示の見直しについて
ウ 支援組織づくりについて
- (6)その他
- (7)閉会

5 議事について

- (1)報告「(仮称)岩槻人形会館の進捗状況について」

委員長：それでは議事次第に従い進めさせていただきます。まず(1)報告について事務局より報告願います。

事務局：(組織、運営に関する進捗状況及び発掘調査の状況についての報告が行われる。)

委員長：事務局より、組織、運営に関する進捗、また建設予定地の発掘調査の状況についての説明がありました。また先ほどの説明にもあったように、開館に向けて少なくとも半年間、スケジュールが延びました。説明についてのご質問があれば。

委員長：ようやく学芸職員が採用されるとのことですが、今後の採用スケジュールは。

事務局：採用につきまして人事委員会が公募により募集を行います。2月初旬に公募の記事を市報等に掲載します。2月下旬に選考試験、選考には面接も含まれます。3月中旬に可否の発表となると聞いております。結果は試験終了後、我々に報告されます。

委員長：実行力のある方が採用されればと考えるが。

事務局：即戦力となるような人材が採用できればと考えております。また試験に合格した学芸員は4月からの採用を予定しています。

G委員：発掘調査ですが、先程の報告によると近世の土人形も出ているようですが、人形関連の遺物があれば是非報告してください。

(2) 議題

ア 資料等選考評価委員会について

委員長：それでは、議題に移ります。「ア 資料等選考評価委員会について」、事務局から説明願います。

事務局：(資料等選考評価委員会について説明が行われる。)

委員長：それでは、資料等選考評価委員会についてですが、資料の収集も大きな事業の一つです。この委員会の設置及び構成について、質問や意見がありましたらお願いします。当然、資料の収集の方針、方向性、予算計画も踏まえた上での委員会であると思いますが、事務局で補足はありますか。

事務局：現在、岩槻人形協同組合に、岩槻の人形や道具類等の所在地調査をお願いしています。今後、それらを借りるとか、寄贈、購入といった事がある場合に、学芸員を通じて、所有者と交渉し、評価委員会の了解を得る必要があると考えています。年間の展示を運営する上で、不足する資料があれば借りる、また、購入する事も必要と考えています。

事務局：今、所有している資料と、組合の資料について、展示計画に合わせてどういうものを展示し、運営していくかを、4月以降に考えていく必要があります。旧埼玉県立民俗文化センターにも人形の資料があると言われていました。学芸員が配置されたら、資料の一覧表を作ってもらいたいと思っています。今後、資料が必要となれば、資料等選考評価委員に見て頂ければと思っています。

委員長 今後の展開の中で、資料等選考評価委員会の設置が必要であるということですね。資料の取得にあたっては、今後はこういった組織できちんとした評価をして決めていくと。

A委員：人形組合の資料調査については、12月から15名の組合員により、委員会を編成して進めています。歴史的な資料、写真、原型、道具、材料など。80名にファックスで依頼し、昨日も委員会を開催しました。あそこには といったものがあるのではという情報もあります。どこにどのようなものがあるのかの調査で、情報を準備室に報告しますが、第一弾は3月末までに行います。

B委員：評価委員会の発足はいつですか。

事務局：予算の関係もあり、4月以降を予定しています。

B委員：資料購入費も合わせてですか。

事務局：資料の購入は評価委員会で選定していただき、文化財等取得基金の選考委員会に諮り、了解が得られれば購入資金が裏付けされます。

A委員：市の基金ですか。

事務局：基本的にはそうなります。

事務局：4月以降は学芸員の配置を予定しており、学芸員と選考評価委員とで進めてもらいます。まず学芸員が資料調査を行い、検証してもらい、その上で必要なものについて、委員会で検討してもらいます。

B委員：展示プランが先行していますが、今後収集のための方針の検討も必要だと思います。収集と展示の展開を平行して検討する必要があると思います。この施設は人形という、他の展示施設にない名称を付けているので、注目されています。人形をどう定義し、位置づけていくのか、学芸員がそれを作る必要があります。

委員長：施設のコンセプト的なものは出てはいますが、これから方針の検討が必要ですね。学芸員が採用されたら再度見直し、進めて行くのがセオリーでしょう。

C委員：人形の資料の収集は大事だと思います。東洋美術史の専門家、人形の専門家、鑑定士、学芸員もいますが、鑑定は1人ですか。2人いると正確な鑑定ができると思いますが。

事務局：委員会で鑑定を行うという事ではありません。購入する場合には複数の外部の鑑定士に見てもらい検討する必要があると思います。それでも内部での検討も必要かと、1人専門家を入れた方が良いかと考えています。

委員長：事務局の認識は統一されているが、選考評価委員会で、価値も価格もここで決定する必要があると思います。外部は、委員会での検討の前の段階であれば妥当であるが、委員会の結果を出した上で、また鑑定となると委員会の意味がなくなるのでは。

事務局：外部の鑑定は委員会の前で、それを参考資料にすると考えています。

委員長：了解しました。そういう形で選考評価委員会とするのであれば。それでは、これで進めて宜しいでしょうか。

(各委員の異論無し)

イ 展示の見直しについて

委員長：了解を頂けたので、次の「イ 展示の見直しについて」、事務局より説明願います。

事務局：(展示の見直しについて事務局より説明が行われる。)

委員長：「3 人形来歴物語」は、基本的なストーリーや時代の変遷がベースにあり新たに加えられたということ。また岩槻のコーナー、7の「人形ごっこコーナー」などで構成したということ。これについてご意見を。

委員長：例えば「人形来歴物語」で、この中のタイトルを付けたコンセプトはどのような考えですか。

事務局：それぞれのテーマから物語性の高い人形を取り上げ、来館者が単に人形を見るだけで無く、感じ取って頂く。これらは所蔵する人形の中から展開していきたい。例えば武者人形とか、郷土人形もたくさんあるのでこういうものも展示したい。皆さんの身近なテーマを選んでいきたい。観光客を考えると、物語性があると良いかと。例えば遷喬館で、その場所についての物語を加えて説明するとより興味を持ってもらえる事ができる。これらは集客にもつながるのではと考えています。

事務局：変更前は人形の役割や意味づけに基づく展示。これは人形そのものを見せる展示。人形の持っている社会的な意味など、アピールできないかと。そこに集客性を兼ね備えることができるのではと考えます。もう少し意味を加えることで。

G委員：発想としては面白いと思います。人形はもっと有機的なもの。展示では系統的に分類し意味を分解してしまう事もあるので、こういった展示の中で、人形文化が生まれているというコンセプトでやれば面白いと思います。内容については学芸員が入ってから検討が始まるでしょう。しかし、例えば篤姫に関わるとされる「乗添人形」は裏付けが必要です。博物館展示としてどこまで根拠として提示できるか精査しないといけません。集客ありきという所は、考えてもらった方が良いでしょう。

事務局：史実に基づかないといけないと。

G委員：史実に基づかないといけない。この部分では、色々な要素がある展示を、有機的に見せる場にした方が良くと思う。

委員長：博物館としての展示が必要ですね。

事務局：あくまでも博物館という考え方です。広い世代に見て頂き、話題性や興味を生み出すと考えています。

G委員：あくまで博物館というコンセプトの中で、精査して頂いた方が良いです。事業としてこういう事があり、今話題のテーマだから取り上げるという話ではなく。

事務局：集客が大切と考えますが。

委員長：何を展示していくかは、学芸員が幅広くアンテナを広げて検討すると。

C委員：博物館または美術館というのはわかるが、されど集客も必要。アピールできる施設にしたい。岩槻に人が来て、それによって人形に興味を持ってもらう。例えば受験にご利益のある菅原道真のようなアピールできるようなものも良い。それについて見てもらうと。

G委員：神社とかそばにあれば良いが、中の展示は博物館というのが基本です。精査して、由来のわかる人形について、出せるだろうと思います。色々な切り口があります。

事務局：今日お出しした実施設計はこのような内容とし、学芸員が配置されてから展示の修正を考えていきたい。

D委員：島田市博物館には昔の街並再現と島田髷の展示があります。しかし、実際の街に出た時の落差がある。実際の街には住んでいる人がいることがライブで見ることができます。例えば学芸員の机の上が見えるようなそういった展示の方が、価値があります。感動を呼ぶ。学芸員が展示をどう考えているかがわかるとい

った方が、人形のまちの展示として良いのではないのでしょうか。学芸員が興味のある事をユーチューブにアップするとか。学芸員が語っている事が見えることも必要と思います。例えばネットで人形について説明されているとか。ネットで小さなカタログを作ることができるとか。拡張性が展示にあると思います。コミュニティ・カレッジのように、学芸員がもっと全面に出て来て良いのではないのでしょうか。

委員長：博物館、美術館としての情報を提供していくと。そういう事も含めて、展示が解説されていくのでは。新しいIT技術を広く導入していく必要がありますね。

E委員：人形文化をいかに見せるかが重要ですが、INからOUTと書かれているのが誘導の展示とすると、城址公園の横に設置されている施設として、元々この辺に来ている人にいかに入って頂くかを考える事が必要かと思います。向かい側に遊具の置いてある場所もあり、子ども連れの方々には、温かい場所でトイレに行けるとか、そういった事に配慮する必要があるのでは。人形なら私たちも見たいというようになるような、使いやすいものに。ここが人形の家、なぜここでこういった事をしているのかというコミュニケーションの場となっているような。ウェルカムデスクである事も考えられます。企画の意図を伝え、わが町に何があるというのを地元の方々に伝えれば。

事務局：予め図面を配付しなければいけなかったのですが、入口は窓ガラスで城址公園が見えます。カフェがあり、導入には、岩槻の情報コーナーなどの無料ゾーンがあります。もっと、人形ごっこコーナーとか、岩槻のまちをアピールするものをさらに配置するとかを考えていきたいと思っています。

A委員：21世紀美術館は市民のデートスポットになっている。通りすがりに寄る場所であります。年間、100、200万人の集客につながっているのでは。そういった事ができればC委員がおっしゃる集客にもつながるのではないのでしょうか。

委員長：集客については、市民・団体との連携が求められますが、これは内容的に次の議題と重なるので次にいきたいのですが、他に展示についてのご意見はいかがででしょうか。

A委員：岩槻では、みみずく土偶が発掘されています。今は東京国立博物館に収蔵されていると思います。これの展示はどうでしょうか。久伊豆神社は土師氏の創建とか聞いています。岩槻の紹介でさりげなく紹介して頂けないでしょうか。

委員長：学芸員が入った段階で調査を進めていきたいですね。

B委員：人形の歴史について、どう捉えるかを考えるのが学芸員の大切な仕事であると思います。今のコスプレも人形につながるのではと思っています。人形とは何かという哲学があり、その上で展示するという成果が欲しいですね。現場が何を言いたいのかから、手段を考えていくべきでしょう。大きくマネジメントまで考えられるフットワークの良い人材が良いですね。人形おたく、歴史おたくで無い人を採用して欲しいです。これはかなりレベルが高い話であると思いますが。

委員長：色々な意見が出ましたが、これらを踏まえ今後の方向性とすることで了解頂けますか。

(各委員、異論無し。)

ウ 支援組織づくりについて

委員長：それでは事務局から「ウ 支援組織づくりについて」の説明をお願いします。

事務局：(支援組織づくりについて説明を行う。)

委員長：開館前に支援組織ができるのは面白いことだと思います。D委員のご専門ですが、これについて補足の説明を願いたいのですが。

D委員：博物館には友の会という組織が、世界的にあります。日本にはいろいろなタイプがあります。一つには純粋に芸術などを考えて集まる組織で、公的な施設に多くありますが、参加人数が少ない。次に施設を運営する人材が少なく、地域の文化を支えたいという人々が集まり、例えばNPOを作って施設の運営を支えるといった両極のタイプがあります。博物館では部屋の脇の方に座っている仕事がありますが、これが重要でNPOが支えるというのは大切な事です。そ

れに加えて、皆で集まって、御飯を食べたりして、そこから他のボランティア組織が生まれるということもあります。博物館の求心性として芸術を愛好するだけで無く、コミュニティの求心性になっていくと。今までに事例がないのですが、マーケティングを分析して進めると、日本では成功している友の会がありません。友の会は施設を支えていないのではと思います。立地から考えるとコミュニティの魅力に転換していったらどうかと。学芸員的な視点から考えると、ずれるかもしれませんが。街の真ん中が博物館とし、そこに人がやって来る事に力点を置いた組織を作っていくと。これは従来の博物館のイメージとは違います。マーケティングのコンサルと一緒に、集客のためのイベントを行っていく。それで儲ければ博物館に寄付していくとか。それができれば地域の核になるのではないのでしょうか。集まってきた人の関心が博物館に向きます。

委員長：これについていかがでしょうか。

B委員：早い時期に受け皿を作るのは良い事だと思います。これが成熟してグループで動いていくと。それを作る一歩であると思います。私が所属する美術館は、100名以上のボランティアがいます。ここでしか出会えない人と会えるという事も楽しみとなっています。周辺組織ができる事が大切です。本当の意味での。これには専門スタッフがその窓口となる事が大切です。アイデアを実行できる専門家と、フットワークが軽く実行していく人がいないといけないと思います。

委員長：監修の先生たちの力を借りるにしても、事務局にかなりの仕事量があります。それに耐えられる組織が必要ですね。今回の募集は学芸分野と教育普及の人材と聞いていますが。

事務局：1名は学芸分野、もう1名は教育普及分野と考えています。

委員長：事務局の行政サイドの職員も腰を据えて対応しないと成果が出ないでしょう。行政サイドにも力のある職員を加えていく必要がありますね。それを希望します。地元との連携は大切な事です。

C委員：岩槻の活性化も目的になってくるので、行政、市民、関係団体で強い壁のようなものができたらと。この委員会の持つ意味が重要と思っています。大変良い

人形会館ができるのではないかと思います。活性化が必要なので、感動もしています。岩槻の発展も間違いないのではと思います。

委員長：行政、市民、関係団体との連携がないと進んでいけないので、是非この形で充実して進めて頂きたい。

G委員：一つ申し上げておきたいのは、人形の展示施設はにぎやかであるという事です。中高年の女性の来館者が多いので、そういった方々が人形を見ながら自分の思い出を語ります。そういった人が中心になると思います。今年は根津美術館でも雛人形の展示があり、三井美術館もあり、雛人形の展示が増えています。そういった所を見ると、中高年の女性が来館しています。施設を支える層はそういった方々と思います。

B委員：100人のうちの1人でも取り入れることが必要かと思っています。

委員長：美術館や博物館では静かにしろと言われますが、多少は会話ということもあっても良いですね。中高年の女性達はにぎやかに鑑賞しています。会話のできる美術館というのも良いかもしれません。

G委員：もう少し民衆的にしていくと。D委員の戦略は面白いし、実験的ですね。

D委員：現象はわかっていますが、どう事業化するかがわかりません。マーケティング会社をコンペティションで決めて、自由にプランを描いてもらい計画を作っていくことも考えられます。例えば企業のPRやマーケティング会社の人施設に常駐するとか。民間が3～4人いて、博物館と連携するとか。その中の人をコンペティションで選び、対価を支払っていくとか。

B委員：広報も大切です。東京都写真美術館は広告代理店のノウハウが入り、効果が上がっています。

事務局：今までに無いような組織をどう立ち上げるかが課題です。地域に出て、岩槻区にとってどういうスタンスを形成していくのか。今までにやった事のないものです。地元の方々がどれくらい情熱を持ってくれるかが課題です。複数の方が

我々の考え方を理解し、核を作っていくと考えています。

委員長：人形組合の幹部も本日の会議にご出席されています。この計画に基づいて、進めて頂きたい。

B委員：この計画は、文化庁などに賛同して頂きやすい内容と思います。補助金も視野に入れることができるのでは。埼玉県立近代美術館では、美術に関するNPOを組織化し活動させる窓口となっており、これに文化庁から1,000万円の補助金がついています。

委員長：組織を動かすためにはそれなりの予算が必要になると思います。市の予算だけではなく、助成金を獲得することもありますね。

A委員：いくつか意見があります。まず、一日も早く支援組織を作って欲しいと思っています。このような組織ができれば非常に助かります。次に友の会ですが、埼玉県立博物館の友の会が作った冊子があります。城下町と人形というテーマで、企業から補助金をもらって作成しました。DVDも作りたいとありました。3番目ですが、今年も目黒雅叙園で百段階段での雛人形の展示があります。昨年、当初会期中3万人の来場者を予測していたところ、1ヶ月で6万5,000人も来ました。今年は2回目となっています。最後に、岩槻まちかど雛めぐりですが、今年は8回目となります。市から100万円の補助金を頂いています。例年、1ヶ月間に5～6万人のお客様に来て頂いています。周辺の飲食店などにも経済効果が出ています。2～3月は全国的に雛人形で集客が行われています。

委員長：それではこの件に関してはご承認頂けますでしょうか。

(全委員、特に異論無し。)

その他

委員長：本日の議題については終了させて頂きます。その他に何かありますか。

事務局：次回の日程ですが、支援組織についてのご報告などを中心に、7月頃に開催し

たいと考えています。

F 委員：名称は大切だと思います。施設の名前についてはどうなっているのかと言われていますが、いつ頃、正式に出せるのでしょうか。

事務局：建築工事について平成 23 年度の 10～12 月に着工できればと考えています。それから考えると、平成 24 年 4 月以降、行政としての案を考えないといけな
いと思っています。案ができれば委員会にも提示したいと思います。

委員長：名称の候補を絞る際には、その都度委員会が開けないのであれば、各委員にも情報を流して頂きたい。

委員長：これについては慎重にお願いしたい。

F 委員：選考評価委員ですが、専門家の人数は。

事務局：美術史に関わる専門家が 2 名、人形に関わる専門家が 2 名を考えています。

委員長：それではこれで委員会を終わらせて頂きます。

以上